



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936番  
(公) 043(222)7207番  
※ 電話番号は4月29日から変更になります

92.5.21 No. 3594



PKOをめぐる情勢は、風雲急を告げる緊迫した局面を迎えている。  
派兵法案のPKO法案を、なにがなんでも成立させようとしている宮沢内閣は、公明・民社・「連合」を抱きこみながら、揺れ動く田辺社会党の足元を見透かし、一気に五月末にも成立を強行しようというのである。

一方、五月一八日、参院国際平和協力特別委員会の冒頭から渡辺外相は、「PKF派遣は国連のコミンド(命令)に従う」等々の見解を示した。要するに、一旦カンボジアに派兵したらあとは、国連軍の指揮・命令で戦闘だろうと、何だろうとやる、ということ公然と表明したのだ。

PKO法案が、沖縄を最前線基地としながら、自衛隊をカンボジアに出兵させるための法案であり、日本の新たなアジア侵略の道であることが、いよいよ政府の側によっても明らかになってきたということである。

UNTAC事務総長・明石発言は、そのことを如実に語っている。明石は、沖縄「復帰」二〇年にあたる五月一五日直前に、「車両・テントなどの備蓄のための集積所、要員の訓練所など『今後予想されるアジア地域でのPKOのために沖縄に恒常的なものをつくる』』という構想を明らかにした。

こうした動向に対し、沖縄県民は、ただちに反撃に立ち、本土でも五月一九日、社会党主催の緊急集会は、主催者の予想をはるかに越えて、日比谷野音をうずめ尽くす大結集となった。

しかも、社会党一部指導部の動揺に厳しい糾弾が寄せられ、「連合」の挨拶には、怒りの弾劾がぶつけられている。

こうした情勢を見据え、全職場での署名活動、諸行動の貫徹を通し、全力で六・一四明治公園への結集を、なんとしても勝ちとろうではないか!

# 国鉄労働運動の開拓者となろう!

## 戦国時代に入る労組再編

### 5/18 JR連合発足!

JR当局による、第二の「分割・民営化」攻撃の一方の柱「労務政策の変更は、五月一八日「JR連合の発足となって具体化してきた。昨年開始されたJR総連の分裂は、言うまでもなくJR総連革マルの排除として西日本から四国にまで行きついた。

会社側のテコ入れによって発生した労組再編は、「JR連合」へとここに収れんされたのだ。加盟組織は西・東海・九州・四国労組と鉄産労を加えて七万五千名と、JR内での最大組織になろうとしている。そしてJR総連を追い落とし、「連合」と交通労協加盟を申請している。

しかしながら現在JRで働く労働者にとって、「JR連合」の発足は歓迎すべき事柄でないことは自明の理である。

JR当局にとって、「分割・民営化」の破産は決定的な経営危機を強制しているように、その「解決」のしわ寄せは全て大合理化!

出向・首きり、安全の危機へと直結している。その政策を支える組織としてこの「JR連合」の存在がある以上、唾棄すべきものに他ならない。

JR内の労働運動は、戦国時代に突入した。どこがそのイニシアチブを握るのか?どの組織がJRの労働者の未来を掌握するのか? JR総連の衰退は今後雪崩式に進行するであろう。東日本・貨物への波及は、「JR連合」の発足によって加速度的に進むことは明白である。

この局面に際し、決定的に東日本・貨物において相連することは、国鉄労働運動の旗を守り、運転保安確立という動力者魂を堅持しているわれわれ労働者千葉の存在がある。

第二の「分割・民営化」攻撃のし烈な嵐に、高く帆を上げ舵を切る力!国鉄労働運動の開拓者こそわれわれでなければならない!



五・一四二里塚  
△全国総決起集會  
日時 92年5月24日(日) 12時  
場所 反対同盟所有地  
△全支部全主力動員